三納の里 だより

令和5年度第5号
令和5年8月14日
発行

三納の里創立18周年記念式典を開催

8月に入り、厳しい日差しが照りつけていますが皆様いかがお過ごしでしょうか。夏本番を迎えて暑い日が続きますが、元気に乗り切っていきたいですね。

さて、平成17年7月に開設された当施設は、今年度で誕生から18年が経ちました。これを記念して、7月10日に三納の里創立18周年記念式典を開催しました。はじめに相澤潔理事長から職員に向けて講話があり、続いて10年勤続者6名の表彰が行われました。表彰では、理事長が受賞者一人一人に日頃の感謝の気持ちと激励の言葉をかけながら、賞状を手渡ししました。最後に、職員を代表して介護職員の関屋美紅さんが誓いの言葉を述べ、記念式典は無事閉会しました。

当施設は、旅人が道に迷ったときの目印として頼りにする「宵の明星」または「明けの明星」のように、地域の方々が不安に陥った場合の希望の星でありたいという願いをこめ、さらに医療、福祉、住民の三つを支える「三星」になりたいという希望の光を目指しております。

職員一同、これからも皆様に寄り添いながらより良い施設になるよう邁進してまいります！

誓いの言葉を述べる
関屋美紅さん

10年勤続受賞者の
吹井貴大さん

ティン・タマン・タラ・デビ さん　カトリ・ランジタさん　カウシャル・バビタさん

３名の実習生が仲間入り！

親日国であるネパールから、特定技能実習生の3名が来てくださいました。

今回、当施設に来てくださった「技能実習生」とは、日本の技術を外国へ移転するといった社会貢献を目的とし、技能実習制度に基づく在留資格で日本に滞在している外国人のことです。

慣れない環境や、言葉や文化の違いに３名ともまだまだ緊張している様子ですが、彼女たちの活躍を温かい目で見守っていただけますと幸いです。これからどうぞよろしくお願いいたします。

思いを込めたぬり絵制作

毎月第２・４水曜日に、機能訓練指導員のサポートのもと、手先の訓練を兼ねたアートクラブ（ぬり絵、カレンダー作成等）を実施しています。ぬり絵には「手指機能の向上」「ストレスの緩和」「脳の活性化」など、さまざまな嬉しいメリットがあるといわれています。

入居者の皆さんも、ぬり絵をするときは集中モードに入り、ぬり方を工夫してぼかすようにしてみたり、グラデーションをつけたり、しっかり色を区別するように描いたりと、皆さん思い思いのぬり方で取り組んでいます。同じイラストでも人によって仕上がりは異なり、たくさんの色を使ってぬり絵を楽しんでいました。

現在、アートクラブは新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止していますが、1日でも早く皆さんが楽しく活動できる日が戻ることを祈っています。

集中して楽しんでいます！

迫力満点のパフォーマンス！

7月19日に、夏祭りを目前に控えた「互親組（ごしんぐみ）」の皆さんが、市内を巡回して西都市の一大イベントである西都夏まつり（7月22、23日開催）のPRに来てくださいました。互親組は、“宮崎観光遺産・記紀の道”のスタート地点となっている都萬神社の自治・警備・消防・清掃などに従事する奉仕団体で、1882年（明治15年）に「互親連」として発足し、1887年（明治20年）に「互親組」と改称され、なんと100年以上の歴史を持っています。

当日は、正面玄関前に大太鼓が設置された迫力満点の車を停めて、入居者様に太鼓の演奏を披露してくれました。互親組の皆さんのハッピ姿はとても格好良く、入居者様も圧巻のパフォーマンスを楽しんでいる様子で、ひと足早いお祭り気分を味わうことができた1日でした。